

書籍	方剂名	効能	生薬組成
	主治および証		病機 方意
祛湿剂 温化水湿剂 5			
じっぴきん 実脾散 (実脾飲)	温陽健脾・行気利水		厚朴・白朮・木瓜・木香・檳榔子・草果・附子・茯苓・乾姜各6g・炙甘草3g 生姜・大棗と水煎し服用する。
	濟生方	<p><主治> 陽虚水腫 浮腫（下半身に顕著）、胸腹部が脹って苦しい、身体が重だるい、口渇がない、食欲不振、手足の冷え、尿量が少ない、泥状～水様便、舌苔が白膩、舌質が淡、脈が沈遅あるいは沈細などを呈す。 虚寒によって生じる水腫であるところから、「陰水」とも称する。</p> <p><病機> 脾腎陽虚で運湿、化気ができずに水気が内停した状態であり、気滯が顕著なのが特徴である。 脾陽が虚して水湿の運化が不足し、腎陽虚で化気行水できないために、水湿が内停している。水湿が筋肉に氾濫すると身体が重だるく甚だしいと浮腫を呈し、水湿は陰邪で下趨するので下半身に浮腫が顕著である。水湿が内停しており、口渇がなくて尿量も少ない。脾虚で運化が虚弱であるから食欲不振、泥状～水様便を呈し、脾運不足による気機不暢と湿阻気滯により胸腹部の脹満を伴う。陽気の温煦が不足しているので手足が冷える。舌苔が白膩、脈が細は水湿の停積を、舌質が淡、脈が沈遅は陽虚を表わす。</p> <p><方意> 陽虚水腫で気滯を伴うので、温陽と化気利水を併用する。 主薬は辛熱の附子・乾姜で、附子は温腎暖土に、乾姜は温脾に働き、腎の化気行水と脾運を強めて水湿を行らせる。健脾燥湿、利水の白朮・茯苓は、脾の運化を高めて水湿を下泄し、芳香醒脾、化湿の木瓜がこれを補助する。理気の厚朴・木香・檳榔子・草果は、下気導滯、化湿行水に働き、「気行れば湿また行る」の効果を上げると共に、気滯脹満を除いて脾運を助ける。炙甘草・生姜・大棗は、脾胃を振奮させると共に、諸薬の調和に働く。全体で温陽健脾・行気利水の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（実脾散）は利水薬の配合が少なく、脾運を促すことにより水湿の産生を抑え、排出を促進する構成をとっているため、「実脾」と名づけられている。 本方（実脾散）は温陽健脾の剂で「陰水」に対する主方であるが、温陽行気が主体で、扶正益気の効力が不足している。それ故、陰水の寒勝気滯に適する。 気虚が明らかなら黄耆・人参を加えるべきであり、<医宗金鑑>は、実脾飲合附子理中湯とし、茯苓を大量に用いて、温補元氣を通じて行水するのがよいと指摘している。 本方（実脾散）と、真武湯は、同じく温暖脾胃、助陽行水の効能をもっているが、真武湯は温腎に、本方（実脾散）は温脾に重点がある。</p>	